

アフガニスタンを知って、 そして忘れないで！

6月10日（金）津田公民館で、国際理解出前講座を実施し、7名が参加しました。講師は、アフガニスタンと日本を何度も往復し、義肢を届ける活動を長年続いている春木信韻さんです。

アフガニスタンには、地雷やロケット弾で被害を受け、義足や装具等を必要とする人が約80万人もいると言われています。



アフガニスタンは中東に位置する内陸国です。国土の4分の3は山岳地帯で、寒暖差が激しく乾燥しています。乾燥した気候が果実の栽培に適しており、メロン、スイカ、ブドウ等が有名です。

1979年からソビエト社会主義共和国連邦が侵攻し、その後90年代には激しい内戦があったため、その間に埋められた地雷や不発弾がたくさんあります。春木さんはカンボジアでの地雷撤去活動の経験を活かし、アフガニスタンでの支援を始めました。義肢の製作も独学で始めたそうです。



最近は、3Dプリンターを使ってなるべく安く義肢を作るよう開発に取り組んでいるそうです。今は危険なために渡航許可が下りずアフガニスタンに行くことができませんが、渡航できるようになったら多くの人々に義肢を届けたいと話しました。

参加者からは、実際に支援をしている方の貴重な話を聞くことができて良かったとの声が寄せられました。